

徹底討論

河野談話の害毒

秦 郁彦
現代史家

西岡 力
東京基督教大学教授

藤岡信勝
拓殖大学客員教授

高池勝彦
高池法律事務所代表

撮影・佐藤英明

●新聞の罪

編集部 朝日新聞は三月七日発売の『週刊文春』『週刊新潮』の広告で、自社に関する部分を伏せ字にして掲載しました。

『週刊文春』は「慰安婦問題」A級戦



秦郁彦氏

犯●●新聞を断罪。『週刊新潮』は

「●●記事を書いた『朝日新聞』記者の韓国人義母『詐欺裁判』」。誰が読んでも、「朝日」捏造」と見当がつきます。

西岡 以前なら、掲載拒否でしたよね。あるいは文言を変えるとか。

藤岡 購読者数も減っていて、広告料を考えたら掲載せざるをえなかったでしょう。これで朝日にとっての「特定秘密」は朝日のやってきたことだった、と分かりました。

高池 情けないですね。

秦 朝日がすべての発端であることは、『文藝春秋』の九三年三月号で、浅利慶太氏と対談した当時の盧泰愚大統領が「(慰安婦問題は)実際は日本の言論機関の方がこの問題を提起し、我が国の国民の反日感情を焚きつけ、国民を憤激させてしましました」と言っているとおりです。



高池勝彦氏



藤岡信勝氏



西岡力氏

九州島で慰安婦狩りをやったと事実無根の本を書いた吉田清治以下「戦犯」はいくらでもいますが、彼らがどんなに騒いでも朝日新聞が報じなければ、ここまで問題は広がらなかった。

しかし、吉田が悪質な「詐話師」と分かってても朝日新聞は訂正しないし、今後も自発的にやるとは思えません。ですから他の「言論機関」、なかでも読売には見開き二面を使って慰安婦報道の検証をしてもらいたい。

西岡 昨年五月、読売は社説で「一九九二年一月に朝日新聞が『日本軍が慰安所の設置や、従軍慰安婦の募集を監督、統制していた』と報じたことがきっかけで、政治問題化した。特に『主として朝鮮人女性を挺身隊の名で強制連行した』と事実関係を誤って報じた部分があり、韓国の反発をおおつた」と朝日の誤報を名指しで指摘し

ていましたからね。これは非常にいい傾向だと思っています。

高池 さすがにもう逃げられないでしょう。

藤岡 元朝日新聞主筆の若宮啓文氏も昨年出した著書『新聞記者―現代史を記録する』(ちくまプリマー新書)のなかで、〈慰安婦狩りを実際に行つたという元軍人の話を信じて確認のとれぬまま記事にするような勇み足もあつた〉と書いています。

社を辞めたあとではありますが、慰安婦報道があつた当時、論説委員を務め、主筆にまでなった人が事実上、「勇み足」だったことを認めているんです。

朝日新聞はかつて「KYサンゴ事件」で社長が引責辞任し、担当記者も懲戒解雇となりました。捏造記事ねぞうではありましたが、モラルの問題という側面が大きく、国民への直接的被



はた いくひこ

1932年、山口県生まれ。東京大学法学部卒業後、大蔵省入省。ハーバード大学、コロンビア大学に留学。防衛庁勤務、プリンストン大学客員教授、日本大学教授などを歴任。著書に『病気の日本近代史』（文藝春秋）、『慰安婦と戦場の性』（新潮選書）、『昭和史の秘話を追う』（PHP）など多数。

害はほとんどなかったにもかかわらず、非常に厳しい処分でした。

一方、慰安婦問題はここまで大きく膨れ上がり、外国に侮辱的な像や碑が建つまでになった。過去への侮辱だけでなく、いま現在も国益を損なわせ続けています。しかしこれに対して、朝日は一片の謝罪・訂正もしなければ、発端になった記事を書いた植村記者に対する責任すら問うていない。あまりにバランスが悪いのではないでしょう。

編集部 最近、『週刊文春』のスクー

プで化けの皮が剥がれた「現代のベートーベン」こと佐村河内守氏に関して、三十二回も記事に取り上げた朝日新聞が「お詫び」を出しましたが、そんなものより慰安婦問題に関するお詫びを出す方が先ではないかと思えます。

朝日のずるい戦略

藤岡 私はある佐村河内氏に関する訂正文に似せて、「慰安婦報道のお詫び」というパロディ文書を作ったんです（笑）。

「従軍慰安婦について折に触れて報道してきましたが、朝日新聞としても取材の過程で（事実と反すると）気づくことができませんでした。従軍慰安婦に関して事実と異なる内容を

報じて来たことを、読者の皆様にお詫び申し上げます。朝日新聞社」
朝日は早急にこれを出すべきですよ。

編集部 吉田清治は佐村河内守だった（笑）。

秦 朝日だって分かっているんですよ。以前だったら「河野談話見直し」なんて政府が言い出したら、一大キヤンペーンを張って猛反対したでしょう。

高池 たしかに、秘密保護法の時の反対ぶりは「安保反対」の頃に匹敵する異常な激しさでしたからね。

秦 しかし、今回は社説などでもあまり取り上げていません。「アメリカも反対の姿勢」などと報じるに留まっています。世論調査をやると六割から八割が「見直すべし」なので、形成悪しと様子見しているのかと思っていれば、安倍首相が国会で「河野談話



にしおか つとむ

1956年、東京生まれ。国際基督教大学卒業。筑波大学大学院地域研究科修士（国際学修士）。韓国・延世大学国際学科留学。82～84年、外務省専門調査員として在韓日本大使館勤務。90～02年、月刊『現代コリア』編集長。現在、東京基督教大学教授。「北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会（救う会）」会長。著書に「よくわかる慰安婦問題 増補新版」（草思社）など多数。

は見直さず」と明言した翌日（三月十五日）の紙面は、「見直し論は歴史を偽造し、重大な戦争犯罪を免罪するものだ」に始まる志位共産党委員長の党見解を異例の長さで報じている。ついでに「歴史の偽造は許さない」と題した共産党のパンフレット（A4判十七ページ）の概要まで引用しました。

朝日としての見解は一行も見当たらないが、読者よ、お察しく下さいというずるい戦術と見受けました。

私が恐れているのは、韓国側が最

後の切り札として「慰安婦問題でことごとくにけしかけたのは日本人じゃないか。どう責任を取るつもりだ」と言い出すことです。

西岡 慰安婦問題の発端となった記事を書いた植村隆記者は最近、『週刊文春』に直撃されて、弁解もせずにそくさとタクシーで走り去ったようですが、推測するに社から「個別に反論するな」と言われているのでしょ

う。

藤岡 別の週の『週刊文春』は植村氏の韓国人の義母にもインタビューして

ていましたが、義母は「義理の息子が朝日の中で不遇。部数も落ちていく」と話しています。

秦 部数減を義母が知っている

わけありませんから、植村氏が愚痴っているんでしょうね。結局は朝日も、どんな批判より部数減が最も「効く」わけで、だからこそ墨塗りにしても広告料が欲しいんでしょう。もっと怖いのは不買運動でしょうが……。

「河野談話」見直しの機運

編集部 一方、国民世論では「河野談話見直し」の機運は高まっています。

秦 たしかに、菅官房長官は「経緯などを検証する」とは言っています。しかし私は、それが「河野談話の見直し」にまで至るとは思えないんです。

高池 三月十四日に安倍総理は参院予算委員会で、「見直すことは考えていない」と明言した。翌日の朝日は、一面の三分の一以上にあたる八段を使って報じた。ところが、菅官房長



ふじおか のぶかつ

1943年、北海道生まれ。北海道大学教育学部卒業、同大学院教育学研究科博士課程単位取得。東京大学教育学部教授などを経て、現在拓殖大学日本文化研究所客員教授。教育学（教育内容・教育方法）専攻。95年、教室からの歴史教育の改革をめざし「自由主義史観研究会」を組織。97年、「新しい歴史教科書をつくる会」の創立に参加。著書に「教科書採択の真相」（PHP新書）、共著に「ザ・レイプ・オブ・南京」の研究」（祥伝社）、「教科書が教えない歴史」（産経新聞ニュースサービス）など。

官の「検証する」発言は三段の小さな記事。

秦 そもそも、「談話が出た背景や事実に関しては検証する。しかし談話は継承する。見直しはしない」というのはどういう意味なのか。「検証して、それ次第では見直します」という言い方でなければ、役人は「見直しにしない範囲」でしか検証しませんよ。政府の調査に多くは期待できませんから、せめて民間レベルで検証をすべきでしょう。

藤岡 民間の検証には賛成です。し

うチームを組むか、検討に着手している。検討のスケジュールは未定。公表の仕方についても議論を深めた

い」と言っています。政府直轄で有識者を交えた検証チームを作る際、秦さんや西岡さんを入れるべき。そうでなければ、いくら検証しても学問的に全く意味がない。

秦 絶対、呼ばれませんよ（笑）。

西岡 声がかかればもちろん参加しますが、いまのところ何の連絡もありません（笑）。

見直しの前にいますぐできること

があつて、まず政府は河野談話と第一次安倍政権の際の閣議決定を並べて、分かりやすく解説すればいいのではないでしょうか。

あの閣議決定は必ずしも河野談話を撤回してはいませんが、強制連行については「軍や官憲によるいわゆる強制連行を直接示すような記述も見当たらなかったところである」と回答しています。

安倍総理発言の真意

高池 法的には、官房長官談話にはほとんど重みがないんですよ。むしろ閣議決定のほうが重要なのですが、内閣が変わるたびに「継承する」と追認した結果、なんだか格が上がったようになってしまった。「河野談話撤回」というと、まるで憲法でも変えるつもりか、というくらい反発がある。



たかいけ かつひこ

1942年、東京都生まれ。早稲田大学第一法学部卒業、早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了。スタンフォード・ロースクール留学。高池法律事務所代表。東史郎南京大虐殺書籍関連の名誉棄損訴訟の原告弁護士、百人斬り訴訟の原告側弁護士団長、NHK「JAPANデビュー」名誉棄損訴訟弁護士側代理人などを務める。

藤岡 河野談話の対処については、たとえば撤回は明言せず、「菅官房長官談話」を出して河野談話を「事実上」否定し、上書きするなど様々な意見が出ています。

しかし私は、やはり河野談話をはっきり否定すべきだと思います。「事実上、河野談話の強制性を否定する談話」を出したところで、世界の人はもはや「河野談話で慰安婦の強制連行について認めている」と思っているわけですから、「否定します」もしくは「廃棄します」といわなければ、何の

ことだかわからない。

編集部 しかし菅官房長官だけでなく、安倍総理自ら「踏襲する」見直しは考えていない」と明言してしまいました。

朝日と弁護士の共犯関係

藤岡 「見直し否定」と「検証」は一見、矛盾しているように見えますが、これは東京裁判史観に基づく「戦後レジーム」のもとで、敗戦国としてひたすら頭を下げ続けてきたという戦後の歩みと、これからは事実に基づいて日本の誇りを取り

戻すという歴史的課題の狭間^{はざま}で起こっている現象です。

安倍政権はいまのところは、歴史問題にかかわる大きなテーマについて、安直

に正面突破作戦に出ることは避けている。外国やマスコミからの圧力で、政権を潰されたらおしまいですから。

ただしその裏でNSCを作ったり、集団的自衛権についての体制を整えたりするなど、スピード感を持ってやっている。靖國参拝は歴史問題にかかわるテーマで曖昧にしていたが、昨年末のタイミングで突如、参拝した。状況を見て、大きなテーマについても、いずれ動き始めるのではないでしょう。

河野談話の見直しはもはや中韓との問題だけではなく、日米関係にまで影響しています。そのなかで「見直し」ありきで検証すると言えば、集中砲火は免れません。

表向きは「見直さない」という戦後レジーム的な顔を見せながら、検証だけは進める。いずれかのタイミングで、「検証の結果、見直すべきとい

う結論に至った」と言えはいいのではないでしょうか。

秦 韓国に脅されるだけではなく、アメリカからも「韓国ともめるな」「河野談話見直しは評価しない」と言われて、首相自ら「安倍政権では河野談話の見直しはしない」と明言した以上、当分見込みはない、と私は考えます。

藤岡 河野談話の内容、あるいは従軍慰安婦の問題の事実関係については、秦さんの濟州島の調査結果が九二年五月に『正論』に発表された時点で終わっていて、この時、すべての土台となった吉田清治の証言は完全に否定されています。西岡さんの調査や上杉千年さんの調査も出揃っているし、日本政府の調査でも「強制連行を示す資料」は見つからなかった。

一方、この九二年は、秦さんの言うところの「慰安婦問題ビッグバン」の年で、前年八月に高木健一弁護士

らが捜して来た金学順が名乗りを上げ、その年末に訴訟を起こした。チマチョゴリ姿で涙にくれる老婆たちがブラウン管に映し出されて、「これはかわいそうだ」という話になった。それを受ける形で、朝日新聞が九二年一月十一日に「軍が関与」という記事を一面にドンと出した。

秦 慰安婦を探し出して連れて来て、訴訟を起こさせてついでに巡業をする。この方式は高木弁護士が考案し、確立した。インドネシアやフィリピンにまで「日本による被害者」を探しに行く。手間も金もかかるが寄付が集まるから、裁判は負けると分かっているもやる。運動を盛り上げるためでしょう。

藤岡 彼らは「日本による被害者」を地球の裏側まで捜しに行きますから。

西岡 そして朝日の記事の二日後、十三日に加藤紘一官房長官が「お詫び

と反省」の談話を出し、十六日に宮澤総理が訪韓して大統領に八回、謝罪したわけです。

「何を根拠にして謝ったんですか。権力による強制連行を認めて謝ったのですか。それとも貧困による人身売買の被害に対して謝ったのですか」と当時、外務省の北東アジア課の担当者に聞きましたが、「これから調査します」とのことでした。

吉田証言についても、「これから調査しますが……加害者が嘘をつきますかね」と言っていましたよ。

筋書きはすでにできていた

藤岡 「慰安婦強制連行」の問題の発端を、ちよつと振り返ってみます。

慰安婦とは別の流れで、六〇年代から「強制連行」という言葉が使われ始めていた。六五年に『朝鮮人強制連行』という嘘だらけの本が出版され、「強

制連行」という言葉とともに広がりました。しかしこれに対して、日本政府はほとんど反論しませんでした。

八〇年代には「朝鮮人強制連行」が教科書に載るようになり、その後、「連行された朝鮮人のなかには慰安婦もいた」とデマの二階建て方式をとったんです。九〇年六月六日に社会党の本岡昭次議員が、予算委員会ですう質問しています。

「それから、強制連行のなかに従軍慰安婦という形で連行されたという事実もあるんですが、そのとおりですか」

日本政府はこんな話は把握していなかったたので、狼狽してしまった。

清水傳雄労働省職業安定局長が「古い人の話等も総合して聞きますと、やはり民間の業者がそうした方々を軍とともに連れて歩いているとか、そういうふうな状況のようでございます

して」と、辛うじて答えています。

秦 関係者の頭に「吉田証言」が刷り込まれてしまつて、消せなかったんですね。「吉田清治は詐話師だった」と産経はかなり早い段階——河野談話が出る前に書いていましたが、それでも払拭できなかった。

あの頃、私は外政審議室に出入りして、韓国へ慰安婦の聞き取りに行くというので「ならば私は朝鮮半島で女術ぜげんをやっていた人たちに話を聞きたいから、韓国政府に了解を取ってくれ」と言いましたが、「そんなこと、言えるもんですか」と一蹴されました。

十六人のヒアリングに同行したいとも言ったのですが、断られた。「なるほど、行く前からもう筋書きはできているんだな」と思ったんです。

当時の石原信雄官房副長官が二月末に参考人招致を受けて、「元慰安婦

らの証言の裏取りはしていない」「自分は承知していないが、河野談話作成の過程で韓国側との何らかのすり合わせは当然、行われたと推測される」と言っています。石原さんは当時、「冤罪えんざいが後世まで残る」と談話に反発したそうですが、河野洋平官房長官が押し切ったようです。

韓国側の裏切り

西岡 当時、韓国側も金泳三大統領が就任直後に「慰安婦問題について日本側に事実究明と謝罪は求めるが、物質的補償は必要ない」とはっきり言っているんです。河野談話に対して、韓国紙は「日本政府の謝罪を契機に我々が（元慰安婦らへの）補償を引き受けて、恥ずかしい過去の章を閉じてはどうだろうか」と書いていた。

それを覆したのが韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）で、彼らは北

朝鮮と連帯して日本糾弾を進めている左翼ですから、日韓関係の悪化を目論んで「河野談話では納得しない」と言い、アジア女性基金の補償も元慰安婦らに「受け取るな」と言ってきた。悪意を持って日韓関係を悪化させている。

高池 石原氏は参考人招致で「日本政府の善意が生かされていない」と言っていますが、韓国が裏切った格好になったのもそういう裏工作があったからなんですね。

西岡 さらに厄介なのは、河野談話などを出すに至った経緯の裏で、これまた弁護士の前塚悦朗氏が慰安婦問題を国連人権委員会に持ち込んだことです。そして九六年に、あの「クマラスワミ報告書」が出てしまった。

この文書に「性奴隷」という言葉が登場しますが、戸塚は「これは自分が作った言葉だ」と自負している。

クマラスワミ報告書に引用されているのは、吉田清治の本を下敷きに本を書いたヒックスというオーストラリア人の本です。彼は在日韓国人女性から吉田証言の英訳などを貰い受け、それをもとに本を書いています。日本の慰安婦について書いた英語の本がこれしかなかったうえ、外務省が積極的に反論しなかったの、あのような事実無根の報告書が出てしまった。

いや、外務省はむしろ「反論させてもらえなかった」というべきで、二十ページもの反論文を作成して一度はジュネーブで各国代表部に配ったのですが、当時の橋本龍太郎内閣が後ろから弾を撃って取り下げさせたんです。

なぜこんなことになったのか。戸塚の本によれば彼らが騒いだからだと思いますが、ともかくそれによって

まともな反論もできず、「女性基金を作って謝罪した」という政府見解が出されたのです。

論争は終わっている

編集部 当時のことを、戸塚氏は自著『日本が知らない戦争責任』にこう書いています。

「A新聞のM記者から、「こんな終わった話を国連に持ち出すなんて、それでもあなたは法律家なんですか」となじられた記憶が今でも消えない。

Y新聞O記者からは「あなたは、新聞に名前を載せて有名になりたいから、この問題を国連に持ち出したのだらう。そんな人についていくことはできない」と「取材拒否」された」

当時は心ある新聞記者がいたんですね。

西岡 日本国内の論争では「強制はなかった」とは明白になり、論争自体

は終わっていた。しかし、その際に国際社会にけしかけた人たちがいた。私も当時はそこまで手が回りませんでした。

結局、クマラスワミ報告書は撤回されることもなく、続けて九八年には「マクドゥーガル報告書」が提出され、「慰安婦の制度は『奴隷制』であり、慰安所は『強姦収容所』であり、慰安婦は強姦、性暴力を受けた『性奴隷』である」「日本のアジア女性基金は法的責任に基づくものではないので、新たに賠償を行うべきである」と記載されることになりました。

高池 こんな捏造を黙って通したとは信じ難いことです。他の国だったら、自国がここまで貶められて黙っていないでしょう。

たとえば〇七年十月に、米下院外交委員会がトルコによるアルメニア虐殺をジェノサイドと認定する非難

決議が提出された時には、トルコはアメリカに猛反発しました。

「この決議案を通せば、トルコはイラク戦争に不可欠な米軍のインジリク基地の使用を拒む」とまで言い、NATOからの脱退も辞さない構えを見せました。日本もそれくらいやらなければならなかったはずですよ。

西岡 河野談話見直しの機運に乗る形で当時の日韓交渉を検証することはもちろんですが、国際宣伝の方法についても見直すべきでしょうね。英語での発信も絶対的に少ない。

戦略的国際広報を

秦 それでも日本からの英語での発信が増えてきましたが、そこで心配が一つあります。つまり、国際社会で「日本が女性を性奴隷にした」と思われている状況で「やっていない！」と「従軍慰安婦」なんて存在しない」と

言っても、「悪事を働いたものが言い訳しているにすぎない」と受け取られる可能性があります。

当然、そのような発信には日本の非の部分は書きませんから、「ことさらに抗弁している」宣伝文書と取られかねない。

私は、「慰安婦募集広告」とアメリカ軍によるビルマでの慰安婦聞き取り調査内容——ピクニックや買い物を楽しんでいた、かなりの貯金もあったという証言——強制連行と性奴隷を否定するには、こうした単純明快な資料で十分だと思うんですが……。

藤岡 言葉の定義も重要ですね。日本では「従軍慰安婦」はいない」と言えば済む、と考えている人もいます。いうまでもなく、戦争当時には「従軍慰安婦」などという言葉はありませんでした。

しかし、前提がある程度分かっている人にはニュアンスが伝わりますが、知らない人にしてみれば「え、あのおばあさんたちが存在しないということ?」「女性を慰安婦にはしていないと嘘を言っているのか」と受け取ってしまう。英語で「Military Comfort Women didn't exist」と言くと、より、そのまづさが分かるでしょう。逆効果にすらなりかねない。

そこで、「慰安婦（売春婦）はいたが、性奴隷はいなかった」という対句で言うべきではないかと提案したい。日本人一億人に理解してもらうためには、聞いてすぐにピンとくる表現でなければダメです。

国際社会に発信する場合にも、簡潔で分かりやすいスローガンが必要です。まずは「慰安婦は性奴隷だった」という誤解から解くべきではない

でしょうか。

西岡 海外への発信については、私も英文でこれまでの経緯を淡々と書いて発信しようかと執筆中です。

国際宣伝の観点でいうと、韓国側は盧武鉉政権時代に東北アジア歴史財団を設立し、国際社会に慰安婦問題や竹島問題などを発信するための予算を付けています。これがいま残りつつあり、「日本海呼称問題」も含めて日本側は防戦一方になってしまっています。

日本も拉致担当大臣のように、日本の名譽を守る国際広報大臣を据えて対策本部を作らないと対処しきれない。たとえば、国際交流基金はすでに功績を残して役目を果たしましたから、この予算を政府広報に回してはどうか。

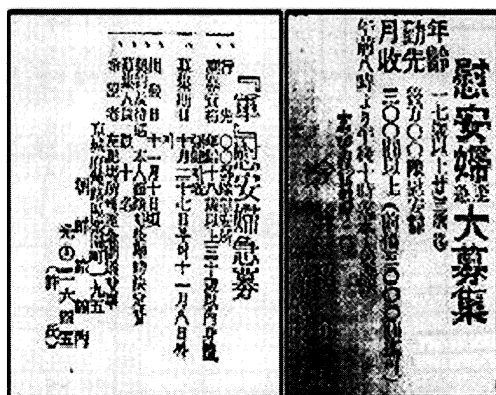
政府広報はまったく韓国に後れを

取っています。まずは民間の財団を作り、担当所管省を設けて、十年単位の長期戦覚悟で名誉回復を図らなければならぬ。

洗脳の解けない人たち

高池 ○七年の米下院決議を審議する際の資料にも、まだ「吉田証言」が使われています。これを払拭しなければなりません。何よりも吉田氏本人が「事実を隠し、主張を混ぜて書くなんて、新聞だってやっている」と九六年の五月に言っているのに、このことは特に国際社会には全く伝わっていません。

朝日だつて九七年三月には、「済州島の人たちからも吉田氏の著述を裏付ける証言は出ていない」と書いているんですよ。しかし、海外の情報は九〇年代前半の情報で止まってい



当時の慰安婦募集広告

る。もちろん日本の責任ですが。秦 朝日もそのように書きつつ、しかし「吉田清治は嘘つきだった」とは書かない。「真偽は確認できない」などと書いたって訂正を出さない限り、「吉田の証言は虚構だった」事実とは広がらない。

西岡 「吉田氏は勇氣を持って自分と日本の罪を告白した」と持ち上げてい

たわけですからね。

藤岡 日本では九〇年代以降も調査研究を続けて過去の認識を改めるに至った、と発表すべきですね。少なくともあの当時は、少なからぬ日本人が世界最悪の悪行を働いたのだと信じ込んでいた。いまでもまだ、信じ続けているらしい人たちがいる。河野洋平などはいまもまだ、「日本人が悪いことをしたから謝っただけ」と思っているのではないですか。

高池 私も、彼らは頭から信じ込んでいるんだと思います。河野談話が発表された直後の九三年の九月か十月頃、こんな出来事がありました。

当時、自民党だった岡田克也氏が若手官僚を集めて毎月勉強会をやっていました。その官僚のうちの一人と親しかった関係で、「勉強会で南京の話をしてくれ」と頼まれたんです。私はたしかに裁判はやっているけど

専門家ではないので、南京事件研究家の板倉由明さんに一緒に行ってもらうことにしました。

会には通産省、文部省、大蔵省の課長クラスも来ていて、そこで板倉さんが南京攻略の話から非常に丁寧に「大虐殺なんてあり得ない」という話をして、時期も時期だったのでついでに河野談話についても触れたんです。政府から調査概要の冊子が出ていましたが、それを見ても「強制連行」の証拠がない、あり得ない、と話したら、岡田さんが立ち上がってこう言った。

「南京大虐殺はあったに決まっている！ 慰安婦の強制連行もあったに決まっている！」

せっかくいま専門家が来て話したのに、全く話を聞いていないし、自分の考えを見直すつもりは一切ない。自民党の議員でもそうなのか、

とびつくり仰天しました。

秦 一度信じ込むと、いくら「間違っている」と言っても通じにくい。証拠まで見せても「そんなはずがない」と考えを改めようとなしない。「間違いだつたと認めたくない」という心理が働くんでしょ。私はもう、信じ込んだ人を説得するのは諦めた。

やはり「談話撤回」しかない

編集部 事実関係がこれだけ明らかになっているのに、なぜ状況が悪化していくのでしょうか。

西岡 九七年三月十二日の国会答弁で、こんなやり取りがあったんです。

小山孝雄議員が河野談話について、「公開されていない資料、そして個々の裏づけ調査をしていない資料で政府は平成五年八月四日の決定（河野談話）を行った、こういうことにな

りますか」と聞いたところ、当時の平林外政審議室長が「結論としてそのとおりでございます」と答えています。

さらに当時の梶山静六官房長官は「いろいろ考えさせられました」と言い、橋本龍太郎首相は「慰安婦問題は女性の名誉と尊厳を傷つけることこのうえないものである」とペーパーを読んだ。小山氏の「あの時代、軍や警察に身を置いて国のために身を賭した方々の名誉というのとは一体どうなるのか」という言葉はほとんど報道もされなかった。

このように、日本には言論の自由は実際にはなく、学問研究の成果を認める素地もなかった。それよりも政治的、外交的配慮のほうが優先されるからです。

高池 外務省にやらせていては、良くなるものも良くない。

秦 一人でも能力のある外交官が慰安婦問題のスペシャリストになれば、問題の多くははねのけられるはずなんですがね。もつと言え、外交官自身がすべて把握しておく必要はなく、学者や専門家のネットワークを普段から作っておけば、いざという時に電話一本で問い合わせできる。

その連絡先のリストを在外公館に置いておけば問題に即、対処できるでしょう。NHKがどんなジャンルのニュースでも専門家のコメントをすぐ取れるのは、そういうシステムができています。

ただ、外務省の役人が退任たいえんするとき、やる気がないというのはあります。河野談話があり、歴代政権が継承している以上、「慰安婦の強制連行はなかった」とは言えないというんで

す。役人としては、「河野談話で謝っています。アジア女性基金からおカネもいただきました」としか言いようがないそうです。

藤岡 だからやっぱり、河野談話の撤回しかないんですよ。

左翼政権が仕掛けた地雷

秦 現在も韓国政府は「日本は慰安婦問題は誠意をもって善処しろ」過去を反省しろ」というのですが、具体的に何をどうしろと言っているのかが分かりません。

藤岡 それは言うまでもなく「国家としての公式の謝罪と補償」で、「日本が朝鮮半島の女性を性奴隷にした」と正式に認めて追加のカネを払え、ということでしょう。

西岡 朴槿惠大統領は今年の「三・一独立運動」式典で、「悲痛のなかで生きてきた慰安婦の傷は当然、癒やさ

なければならぬ」と言ってますよね。

秦 しかし実際には、自分からは具体的に要求していません。むしろ、日本の側が自発的に言い出すように仕向けている。

一二年四月に野田総理が李明博大統領に親書を送り、「何ができるか一緒に考えたい」と伝え、さらに五月の日韓首脳会談でも「知恵を絞っていきたい」と発言した。以来、「何か知恵を絞ったか」「何もしていないのは不誠実」「解決の姿勢が見られない」とつかれている。むしろ、知恵を出したところで「不十分」と言われておしまいでしょうが。

西岡 韓国政府は、実はアジア女性基金のあとには慰安婦に関する要求は出してきていなかったんです。李明博政権時代に一変しましたが、これには盧武鉉が仕掛けた地雷があった。

まず日本国内で、日本の弁護士と元慰安婦が日本政府を相手に「補償せよ」という訴訟を起こして、次々に負けた。「日韓条約ですべての請求権は消滅している」という理由です。

すると韓国国内で「どういう条件で日韓条約が締結されたのか。外交文書を公開せよ」という裁判が起こり、敗訴したにもかかわらず、盧武鉉が外交文書を公開してしまった。

それを左翼の李海瓚首相が、官民共同で外交文書公開に関する対策委員会を作って検証した結果、「慰安婦問題は日韓外交交渉の俎上に一度も上がったことがない」「だから『解決済み』ではなく、請求の余地がある」と発表したのです。

高池 なぜ俎上に上がらなかったと言えば、「慰安婦の強制連行」などなかったからでしょう。

西岡 実際にはそうなんです。最も

反目的だった李承晩でさえ、日韓交渉の過程で、慰安婦問題には一言も触れていません。それは、「民間業者のやったことで外交的に解決すべき問題ではない」と考えていたからです。当時を知っていれば当然でしょう。

しかし、そういう常識を覆す人たちが出てくるようになりました。韓国社会が左傾化し、司法試験に受かる左翼も出てきた。七〇年代に金日成の「親北の人材を作れ、法曹界に浸透させよ」という命令があったのも事実です。反目的な判決に猛烈に拍手したりもする社会雰囲気迎合する判事もいる。

日本と韓国両方に「日韓離間」を目論んでいる人たちがいて、慰安婦問題もそれに利用されている。この状況がある限り、日本が何をしても「善意」は通じません。

秦 韓国のなかで不思議な動きがありましたね。日本大使館前での「水曜デモ」に参加し、来日もしている元慰安婦の一人が「韓国軍がベトナムで行った残虐行為やレイプも検証すべきだ」と言い出しました。

北朝鮮勢力の暗躍

西岡 それはまさに慰安婦問題を焚きつけているのが誰だったのか、が分かる事例だと思います。もともと、ベトナムでの事件を暴露したのは北朝鮮に近い勢力です。「ハンギョレ新聞」という左翼紙が報じたところ、ベトナム戦争の参戦兵士が事実と異なると抗議したと聞いています。

告発したのは親北勢力ですから、韓国を否定し、「北朝鮮の独裁者・金日成に正統性がある」というために韓国を否定するネタを掘り起こし、一方で北朝鮮軍のレイプ事件には一切

触れない。

現在でも、多くの脱北女性たちが手足を鎖で繋がれて中国に売られ、文字どおり「性奴隷」にされている。いま起こっている女性の人権問題を全く無視して、昔のことを捏造して広めて廻っている場合なんでしょうか。

いま助けられる人たちの人権問題の解消こそ急務ですが、それに着手しないのは、この運動があくまでも政治運動であり、外交運動であることの証左です。

秦 なるほど、実に分かりやすいですね。

西岡 アメリカ各地に建設されている慰安婦像のデザインも、反米活動家のデザイナーの手によるものです。どういう狙いでこの活動をしているかが分かるでしょう。アメリカ人には「これは日米離間の政治工作で

あつて、人道問題ではない」と訴える必要があります。

米民主党は中韓寄りですから、ヘリテージ財団や共和党など、日米同盟堅持派に慰安婦問題拡大の意図を知らせるべきだと思います。

藤岡 同時に、外交官は「河野談話」を禁句にすべきでしょう。世界中の公館が聞かれるたびごとに、日本は「謝った」「補償した」と言つて回つて

いますが、これでは「悪いことをしました」と自白して回っているのと同じです。こんなことを言うくらいなら、何も言わないほうがまだまし。言わせるなら、「性奴隷などという実態はなかった」ときちんと反論するよう、指示すべきです。

秦 そうこうしているうちに、今度は日本のなかから声が上がりはじめでしょう。これまでに民主党や社民

党などが、七回も国会に提出しては廃案になつている「総理大臣の公式の謝罪」「政府予算による補償」などを、韓国に呼応して再び出して来るに違いない。

対外宣伝も大事ですが、内通者……日本の場合は「外通者」かもしれないが、とにかくその手の人たちはどうにかしないと堂々巡りになりますよ。

明るい兆しも見えてきた

高池 それでも、韓国側がアメリカにまで像を建てたことで、在米日本人が立ち上がり始めた。在米の目良浩一さんたちが「歴史の真実を求める世界連合会（GAHH）を立ち上げ、かなり大手の弁護士事務所依頼して像の撤去をする訴訟を起こした。州政府は外交問題に介入することは

許されないはずだ、という連邦条項で争うなんて、とてもいいアイディアですよ。

西岡 以前は、私や秦さんが孤軍奮闘している状態でした。九五年にこの問題を初めて取り上げた「朝まで生テレビ」では、吉田清治のVTRから始まって、「強制連行なかった派」は私一人という状態だった。

それから比べれば、以前からこの問題に取り組んできた安倍総理率いる安倍政権ができて、雑誌で慰安婦に関する特集が組まれ、NHKが石原信雄氏の証言を中継するまでになつた。当時と比べれば、隔世の感を感じえます。

外交的配慮に負けず、言論が発信できるようになり、事実はずいぶん広がって真実が明らかに方向へ進んでいるのではないかと思います。